

**【資料8】**

**キャリア教育の視点に基づいた<授業実践>**

本学習指導案は、「教科指導の視点」に加え、キャリア教育の定義に基づく「キャリア発達を支援する視点」を盛り込んだ授業を想定して作成したものである。したがって、指導目標や評価規準等について、「教科の視点」及び「キャリア教育の視点」を並列して記述する形式をとった。

**「国際情報通信」2単位 学習指導案**

平成 年 月 日( ) 校時

対象生徒 名

指導者 里吉竜一

指導場所 高等学校

**単元名 「フレーム」を使おう**

**1 考 察**

**(1) 教科でのキャリア教育**

平成16年1月、文部科学省から「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議(報告書)」が示され、キャリア教育の範囲として、『キャリア発達には、児童生徒が行うすべての学習活動が影響するため、キャリア教育は、学校すべての教育活動を通して推進されなければならない』とされた。

また、平成18年11月に示された「小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引」でも同じ文言が採用され、学校における全教育活動、つまり、各教科、道徳、特別活動及び総合的学習の時間の取組は、児童生徒のキャリア発達を支援する観点に立ったものであることが求められた。

こうした現状を受け、昨年度まで担当してきた教科「情報」において、キャリア教育の視点に基づいた授業を実践するために、本学習指導案を作成した。その際、各都道府県教育センター等の先行研究を参考として、キャリア教育の定義に基づきキャリア発達にかかわる諸能力の伸長を支援する観点から授業を構想した。

**(2) 教材観**

マルチメディア社会である現在、インターネットは様々な場所で利用されている。また、職業生活を遂行するためにもインターネットを活用していくことが必要になっている。よって、Webページを作成するためのHTML言語の基本的な構造や基礎的な知識を学習し、様々な技術等を活用できるようにしておく必要がある。さらに最近では、インターネット関連の事件も多発しているため、ネットワーク環境を利用する時の基礎的・基本的マナーを身に付け、情報モラル(著作権等)に関する知識を習得しておくことは重要である。

**(3) 生徒の実態**

総合学科において主体的に科目を選択した2年次生2名、3年次生20名が参加する。1年次「情報A」で、ワープロ・表計算及びパソコンの基本的な操作方法を学習している。さらに、他選択科目でコンピュータ関連の学習もしているため、「情報」に関する知識及びパソコン操作に関しては、中級レベルと評価できる。ただし、個々のパソコン操作の習熟度にはかなりの個人差がみられる。そのため、一斉に授業を展開するのは容易なことではない。したがって、授業をどの程度のレベル・速さで展開していくかが毎時の課題となる。

#### (4) 題材の系統性

1年次前半では「情報A」2単位でワープロソフトを利用してパソコンの基礎的技術を学習し、後半では表計算ソフトやプレゼンテーションソフトのアプリケーションソフトの他、情報リテラシーに関する基礎的学習をする。2年次・3年次の選択希望者は、「国際情報通信」2単位でWebページ作成、「コンピュータグラフィックス」2単位で3次元画像処理、「マルチメディア表現」2単位で動画処理、「コンピュータデザイン」4単位で2次元画像処理を学習する。3年次では「総合研究(デザイン及び情報)」各3単位で「情報」関係の総合的学習をする。

### 2 指導目標

(1) 教科の視点 フレーム技術を活用したWebページ作品の制作

(2) キャリア教育の視点 社会の一員としての自己の成長を図ること

### 3 単元の評価規準

#### (1) 教科の視点

関心・意欲・態度	Webページ作成とフレーム技術に関心をもとうとしている。
思考・判断	フレーム技術を活用する場合に、表現の特質や影響を理解し、目的に応じてその手段や方法を改善している。
技能・表現	デジタル情報を収集・処理・発信できるとともに、情報モラルに配慮している。
知識・理解	フレーム技術を適切に活用するための基礎的な知識を習得している。

#### (2) キャリア教育の視点

人間関係形成能力	多様な価値観をもった集団の中で他者の感性を尊重しながら、自己の見方・考え方を修正し、社会の中で成長しようとしている。
情報活用能力	ポートフォリオに蓄積されたデジタル作品に関する様々な情報を収集・探索し、活用しようとしている。
将来設計能力	目標とすべき次の見通しを考え、それを実現するための具体策を立て、実際の学習活動で実践しようとしている。
意思決定能力	様々な選択肢について比較検討し、選択結果に適応するとともに、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っている。

### 4 指導方針

#### (1) 教科の視点

習熟度の差が大きいため、<習得的な学習>の段階での理解の遅い生徒には繰り返し何度も説明し、一つ一つの操作確認を丁寧にした授業展開を心がけ、生徒の理解度を確認しながら<活用的な学習>の授業展開に移行する。早く理解して操作が完了した生徒には発展的課題等を用意し、<探究的な学習>に移行する準備にも配慮する。

#### (2) キャリア教育の視点

客観的な自己評価を行うと同時に他者の個性を尊重し、互いに認め合う能力・態度を醸成する。そして、自己の比較優位性や有用感を認識させ、意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適応するとともに、自己実現のために次の目標に向かって努力できる能力・態度を育成する。

## 5 単元の指導計画

	主な学習活動	時間	教科における評価規準	キャリア教育における評価規準
習得的学習	基礎的・基本的な知識・技術を確認する。	1	【関心・意欲・態度】 Webページ作成に興味・関心をもっている。	【将来設計能力】 目標を立てそれを実現するために実践しようとしている。
	フレーム技術の基本的構造を理解する。	1	【知識・理解】 フレーム技術の基本的構造を理解している。	【情報活用能力】 基本的な情報を収集・探索しようとしている。
	フレーム技術をHTML言語に組み込む技術を習得する。	2	【知識・理解】 HTMLの特質を理解して適切に処理するための技術を習得している。	【情報活用能力】 様々な情報を収集・探索しようとしている。
活用的学習	<p>これまでに学んだ技術を総合的に活用して自分独自の作品を制作していくことを理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <b>本時</b> </div>	1	【関心・意欲・態度】 フレーム技術を主体的に活用していこうと努力している。	【意思決定能力】 自分自身で判断しようとしている。 【人間関係形成能力】 自他の評価結果の違いを内省しようとしている。
	自分独自の作品を制作する。	5	【技能・表現】 情報モラル等に配慮している。	【将来設計能力】 課題を実現するための具体策を立て、実際の学習活動で実践しようとしている。
探究的学習	自己及び他者の作品を客観的に評価する。	1	【思考・判断】 Webページの設計と表現の特質や影響を理解している。	【人間関係形成能力】 自他の作品を自分で客観的に評価しようとしている。
	自己評価と他者評価の結果を受容すると同時に、次の展開を考える。	1	【思考・判断】 目的に応じてそれを実現するための手段や方法を改善している。	【人間関係形成能力】 自己の見方・考え方を修正しようとしている。

## 本時の学習指導

### 1 主 題 フレームを使った Web ページ作品の制作

### 2 目 標

(1) 教科の視点 習得したフレーム技術を活用する意欲・関心を高めること

(2) キャリア教育の視点 客観的に自他を評価し、その結果を内省できる能力・態度を育成すること

### 3 本時の評価規準

#### (1) 教科の視点

関心・意欲・態度	フレーム技術を主体的に活用しようと努力している。
----------	--------------------------

#### (2) キャリア教育の視点

人間関係形成能力	自他の作品を客観的に評価し、自他の評価結果の違いを内省しようとしている。
意思決定能力	様々な評価項目について比較検討し、自分自身で判断しようとしている。

なお、本時の評価は授業時の「観察」と生徒への「アンケート調査用紙」の結果分析によって行う。

### 4 指導的配慮事項（授業の視点）

#### (1) 教科の視点

これまで学んだ技術を主体的に活用して Web ページを作成する段階において、ポートフォリオを活用して過去の作品（先輩の作品）を参照させることは、知識や技術を総合的に関連付けながら目的に応じた作品制作への関心や意欲を高めるために有効であったか。

#### (2) キャリア教育の視点

自己の感性で自分独自の作品を制作していく喜びを体感させる段階において、自他の作品を客観的に評価し、自他の評価結果の違いを内省することの意義を理解させることは、他者の多様な価値観を受容しながら社会の一員としての自己の成長を促すのに有効であったか。

また、様々な評価項目について比較検討し、自分自身で判断することの意義を理解させることは、自分の価値判断に基づいて主体的な選択・決定を促すのに有効であったか。

### 5 準 備

学習支援教材（プレゼンテーションソフトで作成）

学習支援教材（過去の作品のポートフォリオ）

評価項目の一覧表（モニタ表示）

アンケート調査用紙（生徒へ配付）

## 6 展 開

	時間	学習活動	支援及び指導上の留意点	キャリア教育の視点
導 入	5分	パソコンをシャットダウンすると同時に、モニタの電源をオンにする。	点呼確認に応答させる。 (生徒の状態確認)	
	5分	本時の学習課題の説明を聞く。 (モニタを見る)	本時の課題はこれまでに学習したフレーム技術を総合してWebページ作品を制作していくことを理解させる。	
展 開	10分	評価方法を理解する。 各自が制作するWebページ作品は教員だけで評価されるのではなく、生徒による自己評価及び相互評価によって評価されることを意識する。 (モニタを見る)	自己評価及び相互評価をする際には、客観的に評価する必要がある、自他の評価結果の違いを内省することが大切であることを理解させる。 同時に、そのことが社会的自己の確立に重要であることを理解させる。 (学習支援教材 を活用)	【人間関係形成能力】 自己の作品を客観的に評価できる能力・態度を育成する。 【人間関係形成能力】 自他の作品を相互に評価し合うことを通じて、自他の評価結果の違いを内省できる能力・態度を育成する。
	10分	評価項目を理解する。 評価シートに記載されている評価項目を理解して作品を制作していく準備をする。 (評価シートを見る) これから制作していく作品をイメージする。	評価シートを参照させる。 自他の作品を評価項目に基づいて自分自身で判断できるように心がけさせ、生徒自らが目的に応じてその手段や方法を工夫改善していけるようにさせる。 評価項目を十分考慮に入れさせる。	【意思決定能力】 様々な評価項目について比較検討し、自分自身で判断できる能力・態度を育成する。
	10分	パソコンを立ち上げる。 同時に(学習支援教材 )を立ち上げる。  過去の作品をポートフォリオで確認する。 (ファイルを参照する)	知識や技術を総合的に関連付けながら目的に応じて作品を制作し、評価の客観性を実現できるように努力させる。  他人の作品を真似(コピー)するのではなく、自分独自の作品を創作していけるように努力させる。	
ま と め	10分	作品制作の時間と提出締切日を確認する。	ポイントを整理し、次の時間に備えさせる。	

資料添付

(1)課題作品の評価は下記の「評価項目」によること

評価項目	(10段階)
自分の夢を紹介しているか	5(おおむね満足)
その夢を実現するための具体策が示されているか	5(おおむね満足)
フレームを使用しているか(ファイル数は指定しない)	5(おおむね満足)
リンク設定をしているか(別ブラウザの表示ページも可)	5(おおむね満足)
テーブルを各ページに使用しているか	5(おおむね満足)
画像を挿入しているか	5(おおむね満足)

(2)注意

- \* テーマに沿ったオリジナル作品を創造すること
- \* 課題テーマ(2学期期末試験)は「自分の夢 それを実現するために」
- \* 内容構成等は独自に考えること
- \* これまでに習得した技術を活用するように心がけること
- \* 作品の提出締め切りは、 月 日( )とすること
- \* 作品の評価は、 月 日( )とすること